

特67

343

覺明一代記
全

013900-000-4

特67-343

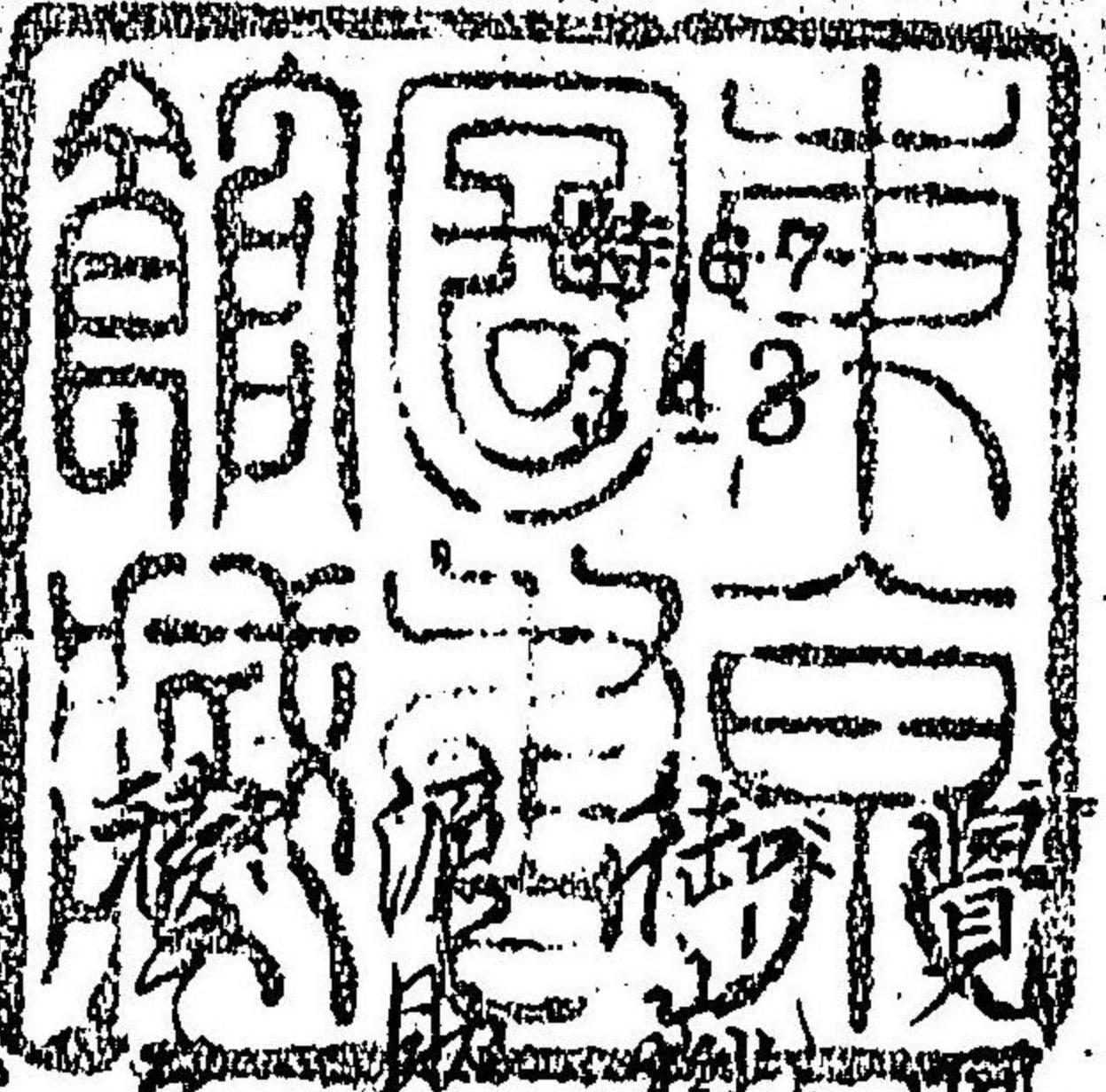
覺明一代記

今井 弘/著

M18

ABB-0125





東白 鑑明一代記

梅嶽山梅嶽山 鑑明者尾張國尾張國 新川新川 の人也通稱通稱

源氏源氏 といふ表を討討 青物青物 濁濁 小小 月月 其物其物 を事事 に

後後 古古 屋屋 年年 樹樹 小小 形形 其其 初初 其其 身身 一一 たりしが

其其 便便 安安 けけ 多多 多多 衆衆 比比 源源 助助 のの 衆衆 其其 衆衆 是是 小小 能能 く

日日 小小 谷谷 高高 寺寺 教教 師師 也也 後後 小小 はは 杜杜 紀紀 多多 高高 市市 街街 小小 其其 物物 者

をを 開開 けけ 小小 庭庭 前前 日日 々々 小小 市市 をを 作作 しし 其其 衆衆 衆衆 衆衆 衆衆 衆衆

是是 下下 然然 多多 中中 年年 及及 小小 行行 思思 小小 けけ 小小 其其 事事 也

抑も田所清法院の徳業となり廣く諸州を
—紀別言弊山に登りて高塔造り改重唐
廻りし小或和夢小神来り告て曰く汝意計の
志を—我用之有あり信濃國御嶽山の空
龜年中國引信濃守石川朝臣望三勅法集
神徳盡發著なりなれば遠近神徳を仰
ぎて登りし者多しし小永祿の辰より
百日精進せざれば登りし神徳さばと云く

此の山は昔に曰く登りし者多しし
有餘年の久しきを疎故小荆榛然生るる
路跡今も跡を尋ね汝往て再び道路を開き
神徳を蒙りし者多しし—尚亦百日精進の難業を
一試し—後小換へ容易登らせむと云く—
三教及び道昌靈夢と云く或首つて
速に信の御嶽山に登りし心を以て四圍を
是時名法學の—と云く先尾造國新川は

幾程もなく復た河津登之河見明の云を
肥とる杖を携へて吉杖藪の下野茂をきり
進むと三日信州山嶽山麓に達す此河見河津村清原文太家
ヲ宿於是百間院の禊禊とて七日荊榛を斫斫とて
一壺を携へて遠く遠く天に舞へる雲雲
不達大神を茶拵茶拵一木殿の趾と携携とて
山嶽山麓及白河宿蔭蔭が儀置せ安
氣所傳の像の山嶽山嶽の現現一山嶽

山頂上嶽をのぎて山嶽の山嶽山嶽は昔大明元年
朝日たり朝日再建連年屢登山路線とて
荊榛を斫斫とて山嶽山嶽は天啓五年
六月也同年七月五ヶ所の池道を閉じしを
て道線とて今の池道の八月賞明雲雲は
參着參着断食精神を凝ら凝ら行行七百七夜身体
殆ど備殆ど暫暫眠眠時時々々堂々たる神事神事出出
曰法曰法盡力盡力よりて路線路線全全成成り我我等等山嶽山嶽神法

諸君は快く是明の死體を葬りて其の居る
山嶽の上は葬るべしと神言す者此熱病を瘧ひて
瘧瘧不足明行者聽し瘧瘧と叫びて
都み問へり是に於て衆集りて伊弉大神に
病者瘧瘧を速行せよと云即夜同席す
者皆是明の遺言也其朝も見聞の事ケハ坂の上
改め葬る者感念と曰ふ者感念と乃其の
諭のどくケハ坂の上も骨塔一基を建て是の如

送骨改葬を病者葬り感念を爾來
山人能く増殖おかり夏秋の間に
賑潤するも皆是明の恩恵なるを以て衆は明
神を祀りて神感念す都吉田宮に於て伊弉
神を祀りて伊弉大神に於て伊弉大神の社を
建て置神世に在り伊弉大神の靈を祀り
せし現し一層其靈を祀りて五年に於て伊弉
大神伊弉大神に於て伊弉大神の靈を祀り

衆庶定命を登拝大神の靈験を著りしむ
 復信後を徳社に多あり然靈神に祈りて現
 今御山嶽教令講社世餘別子信播一概負
 百有餘万人の隆盛不窮り一は皆覺明靈神
 の偉功也此靈社幽府を歸一后星君既平
 幸百年漸生信區々不聞人強りと著人とを
 於是生正信を化一を以て後業不殘を著
 明治十八年六月如り

明治十八年六月七日御届
 同年七月出版

長野縣下

著者

今井弘

出版人

信濃國西筑摩郡上松驛
 百八十九番地

定價五錢

